

CB壁の現地調査要領

DIYで調査出来る様に、調査の状況の写真を示します。

① 全体目視、診断カルテ記入



ひび割れなどの目視、外観調査



診断カルテの記入



重ね積みあり、下は擁壁
目地が乱で鉄筋が入らない



透かしブロックが横に連続している
目地が狭く、無筋になり危ない

② 鉄筋探査

a. プロフォメーターによる探査



鉄筋の磁気探査機(約100万円)による探査
機器は富士物産のPROFOMETER 4 S型



鉄筋の位置と深さを探知可能
ピッチも被りも正確に測定できる
が、今回の目的にはオーバークオリティでDIYでは使えない。レンタルもあるが、県内は運送に時間がかかる。

b. ウォールスキャナーによる探査



粗密探査機(約10万円)による探査



粗密の探査なので鉄筋以外にも反応する
沖縄県建築士事務所協会は協会
から機器を借りることが可能

c. デジタル鉄筋探査機による探査



BOSCH GMS120型(実売1万円)



大工が壁下の調査に使う探査機
で、安価。センターで貸す出す予
定(保証費と使用料を徴収します)

d. 方位磁石による探査



方位磁石(約千円)を離れた位置で
磁北に2本の針を合わせて



鉄筋の近くでは片方が振れる
よく気を付けて見ていると、梁が
磁力に反応して動く。動いたとき
は近くに金属が有ると判断する。

e. ネオジム磁石による探査



ネオジム磁石(800円)の形状
大きい磁石を使いたい、値段が
一桁ずつ高くなる



鉄筋位置(探査済み)でも反応なし
もっと大きい磁石なら反応するか
もしれないが、このサイズの磁石
は被りの中の鉄筋には無反応

③ その他の調査



揺れるかどうか、押してみる



壁厚測定



壁の傾斜の測定(高さ1.0mを測定)
目地の本数でも計算できるが



上下の差が1.0m当たりの傾斜量
1cmの差が有れば傾斜角は1/100